



Sustainable Community Center Japan

NPO

New Public Organization
欲しいものは自分達で創る

2004 年度 活動報告書

2004 年 1 月 1 日～2004 年 12 月 31 日

2005 年 2 月 18 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに「2004年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. 公衆無線インターネット事業「みあこネット」
 - 1-1. みあこネット事業概要
 - 1-2. みあこネットのサービス概要
 - 1-3. 基地局分布
 - 1-4. みあこネットの活動概要
 - 1-5. みあこネットを利用した各種実験・活動
 - 1-6. みあこネット・インテル協同 PR キャンペーン記念フォーラム
 - 1-7. みあこネットビジネス分科会
 - 1-8. みあこネット運営体制
2. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル ネット」
 - 2-1. どこカル ネット事業概要
 - 2-2. どこカル ネットのサービス概要
 - 2-3. どこカル ネット活動概要
 - 2-4. どこカル ネットを利用した各種活動実績
 - 2-5. どこカル ネット運営体制
3. 「e音ネット」事業
 - 2-1. 事業概要
 - 2-2. アクセシビリティ・プロジェクト
 - 2-3. 「音のお出かけ地図」 プロジェクト
4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
 - 3-1. エココミュニティ研究会と SCCJ サロン活動実績
 - 3-2. 京都研究会
5. コンサルテーション事業「愛きもの」
 - 4-1. eきもの NPO 支援サービス
6. 受賞
7. 広報・マーケティング
 - 6-1. 各種メールマガジン発行
 - 6-2. 各種メーリングリスト運営
 - 6-3. Web リニューアル
 - 6-4. プレスリリース
 - 6-5. メディア露出度
7. 寄付
8. 会員について
9. 助成金

II センター運営に関する活動

1. 2004年度 SCCJ 理事会開催日
2. 事務局体制
3. 理事、監事、顧問

はじめに 「2004年度の報告と今後の抱負」

昨年、従来の活動に加え、情報化による市民主体の健康・医療・福祉分野の改善を図る「どこカル・ネット」プロジェクトを立ち上げました。観点する企業会員は着々と増えていますが、本年は、市民への浸透をはかるべく、広報活動に力を入れて参ります。新聞やテレビなどでも頻繁に取り上げられ、多くの方の共感を得ることが出来ました。このプロジェクトも現場のニーズを細かくすくい上げることで、継承、発展させていきたいと考えます。さらに、本年は、「みあこネット」がひとつの区切りを迎えます。これまでのネットワークやノウハウを生かして、この歴史を語り継ぎ、次の世代へと引き継いで参ります。

どうか今後とも当センターの活動に対し、皆様にお知恵やお力添えを賜りますようお願い申し上げます。皆様、是非ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2005年2月吉日
特定非営利活動法人 日本サステイナブル・コミュニティ・センター
代表理事 高木治夫

I センター事業活動実績

1. 公衆無線インターネット事業「みあこネット」

<http://www.miako.net/>

1-1. みあこネット事業概要

日本にはいくつか「公衆無線インターネット」の試みがあるが、このみあこネットは市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクト。市民有志の負担でアクセスポイントを設置し、無線が利用できるエリアを広げている。市民自らがつくる情報インフラ整備プロジェクトとして、みあこネットは世界に類をみない取り組みである。ユーザが無料で「いつでも」「どこでも」「誰でも」「簡単」「安心」「安全」に公衆無線インターネットが利用できる、市民主導型公衆無線インターネットサービスとして、2002年5月から正式に運用実験を開始した。

アクセスポイント数：約300局

規格：IEEE802.11b 2.4GHz

実験終了予定：2004年12月

利用者：約5,000人（2004年12月31日現在）

【利用環境】

- ・ IEEE802.11b (Wi-Fi) での通信ができるノートパソコンから利用が可
- ・ IEEE802.11b に対応した製品であれば、メーカーは問わない
- ・ OSは、Windows Me、Windows 2000、Windows XP、Mac OS X 10.2 対応（2004年12月31日現在）

1-2. みあこネットのサービス概要

■特徴：世界最先端のオープンな実験センター

- ・ 最大11Mbpsの通信速度と高度なセキュリティ・システムを備えている
- ・ アクセスポイントの多くは市民や民間企業の協力のもとに設置
- ・ 世界最大規模のIPv6の公衆無線インターネットエリア

- ・一般利用者はみあこネットを無料で利用できる
(月々の通信費をアクセスポイントのオーナー負担のシステムにより)
- ・観光スポット等、アクセスポイント毎に固有の街情報を受信可能
- ・どこからでも情報発信が可能(端末ごとに固定のグローバル IP アドレスを付与)

■どこでもみあこ

- ・京都府内および日本全国各地に無線インターネットの基地局を設置、実験エリアは拡大している
- ・沖縄から北海道まで、全国 23 都道府県

■どこでも新聞、どこでも聴く新聞

- ・産経新聞 NEWSVUE が無料で読める他、ユビキタスラジオ (Web 上の文字情報などを音声で読み上げるサービス) でどこでも新聞が読める

■どこでもインターネット：日本通信 (株)

- ・b-mobile ユーザは、b-mobile で使用しているアカウントでみあこネットも利用可能

■どこでもオフィス：(株) 堀場製作所

- ・全国のみあこネット基地局から、VPN 接続で自社の基幹サーバへ

■どこでもプリント：

- ・コンビニで「ネットプリント」、富士ゼロックスが実験協力

1-3. 基地局分布

都道府県	市、郡、区								
北海道	札幌市					大阪府	大阪市	豊中市	茨木市
新潟県	上越市					奈良県	奈良市		
茨城県	牛久市					和歌山県	和歌山市		
群馬県	桐生市					愛媛県	松山市		
埼玉県	戸田市					兵庫県	神戸市	西宮市	氷上郡
千葉県	鎌ヶ谷市					岡山県	倉敷市	津山市	
東京都	大田区	文京区	港区	台東区	品川区	鳥取県	鳥取市		
	江東区	中野区	世田谷区	千代田区	渋谷区	福岡県	北九州市		
	武蔵野市	国分寺市				大分県	別府市	大分市	佐伯市
神奈川県	横浜市	藤沢市	鎌倉市			宮崎県	宮崎市		
富山県	黒部市	富山市				沖縄県	沖縄市		
石川県	金沢市								
愛知県	春日井市								
京都府	京都市	舞鶴市	宇治市	向日市	綾部市				
	城陽市	相楽郡							

1-4. みあこネットの活動概要

2004 年度の目標である基地局 300 カ所設置を達成。2002 年後半から、みあこネットに誰でも簡単につながれるようシステムの改良が行われ、利便性は大幅にアップした。更に、インテルとのモバイル環境広報協同プロモーションを 2003 年 6 月 18 日から開始し、みあこネットが使えるエリアにインテル・みあこネットのサインやのぼりを取り付ける費用が捻出できるようになった。この協同プロモーションを通じて、みあこネットの基地局も 150 局から 300 局となる。また、全国各地で地域情報化に取り組んでいる団体がみあこネットの基地局オーナーとなり、2003 年 12 月末には、沖縄から北海道までに広がった。重ねて、みあこネットの接続環境が安定したこともあり、エココミュニティ研究会枠で、各種企画を行いつつ、

利便性・利活用実験を行った。みあこネットのネクストステージを期待して、インテル他多くの企業担当者が、SCGJのオフィスへ訪れ、モバイル環境広報、医療、観光・まちづくり、防犯・防災、マルチキャスト放送など幅広い可能性について協議を重ねた。

会議・イベント情報詳細：<http://www.miako.net/event/index.html>

1-5. みあこネットを利用した各種実験・活動

2004年度は以下の実験を実施した。

■みあこキャスト

街中をエンターテイメントに！

みあこネットの個別 or 全基地局へ IP マルチキャスト（1対多の通信に使用する技術）を使った

動画と音声の配信実験を、京都、東京、宮崎にて実施。10月には「球場内マルチカメラによる放送実験」を行い、空間内での IP マルチキャストによる音声・映像配信実験を行った。

■「みあこキャストを利用した映像コンペ」

多様なコンテンツの創造と流通を促進するための企画として、「みあこキャスト」機能を活用した地域の「元気、安心、感動、便利、輝き、活力」を引き出す動画コンテンツの募集を行い、2004年6月5日には、優秀コンテンツ作品の発表をかねて、『ユビキタス社会における地域依存コンテンツの開発と市民メディアの可能性』と題したシンポジウムを開催した。

1-8. みあこネット運営体制

■運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属団体
事業統括責任者	高木治夫	SCGJ 代表理事
事業運営責任者	岡部寿男	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授
総括技術責任者	藤川賢治	京都大学大学院情報学研究科助手
技術運用責任者	古村隆明	財団法人 京都高度技術研究所研究員

【担当顧問】

氏名	所属団体
今井賢一	スタンフォード日本センター理事
辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授
國領二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授

【協力会員】

財団法人 京都高度技術研究所	京都大学
社会福祉法人京都ライトハウス	産経新聞社
龍谷大学	佛教大学
大阪大学	慶應義塾大学
神奈川県視覚障害者情報・雇用・福祉ネットワーク (View-Net 神奈川)	

【企業会員】

株式会社 アイ・オー・データ機器	オムロンフィールドエンジニアリング 株式会社
松下電器産業 株式会社	日本通信 株式会社
インテル 株式会社	日本ユニシス株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社	株式会社トリプレットゲート

2. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」

<http://www.dokokaru.net>

2-1. どこカル. ネット事業概要

日本にはいくつか「地域医療情報ネットワーク」の試みがあるが、どこカル. ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心安全で質の高い医療を受けることが出来るような（すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような）地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして2004年5月に開始。住民自らがつくる様々な健康・医療・福祉情報インフラ整備プロジェクトとして、どこカル. ネットは世界に類をみない取り組みである。「どこカル. ネット」プロジェクトは、ただ単にセキュリティの高い地域医療情報ネットワークのハードウェアやソフトウェアを提供するだけではなく、どこカル. ネットでつながれた情報技術と人のネットワークを活用した様々な健康・医療・福祉情報を相互有効利用可能な形で一人一人の住民にテラーメイドで提供することで、新時代のライフスタイルを提案する。

2-2. どこカル. ネットのサービス概要

■ 特徴：いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り

- 【1】 いつでも：ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医（診療所）」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有（一地域一患者一電子カルテ）を行う。（注：ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。）
- 【2】 どこでもユビキタス：「みあこネット」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者＝住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。
- 【3】 だれでも：京都高度情報化推進協議会（京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成）医療情報分科会との協業で進められている「共通診察券（無償）」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。
- 【4】 安心安全：「みあこネット」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセルータ（無線基地局）を利用。また、医療従事者や患者＝住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証（生体認証のひとつ）」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。
- 【5】 質の高い健康・医療・福祉：共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探求する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテラーメイドで提供。

2-3. どこカル. ネットの活動概要

「どこカル. ネット」プロジェクト開始以前に、事業統括責任者が支援してきた3地区に加えて、現状、6地区の地域中核病院に対してASP型電子カルテ導入支援を行っている。

導入支援部隊として、どこカル・ネット企業会員から数社5名のボランティアスタッフに協力いただいている。

支援地区：6地区（2004年12月末）

支援地区の人口総和：約500万人（2004年6月末）

2-4. どこカル・ネットを利用した各種活動実績

2004年度（5月から12月）は以下の活動を実施した。

- 「どこカル・ネット」プロジェクト事業会議（12月24日まで計18回開催）
週1回、京都医療センターにて事業統括責任者、スタッフ一同で定例会議を実施。今後も継続して実施。
- 「どこカル・ネット」プロジェクト第1回会員研修会（どこカル・ネット企業会員限定）
本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互の連携・親睦を図る機会として9月18日（土）実施。
- 「どこカル・ネット」プロジェクトロゴマークを募集
「安心、安全な医療、福祉環境をみんなの手でつくりあげる」というイメージが明確に伝わるロゴマークを2004年10月1日（金）～2004年10月31日（日）の期間、公募にて募集。応募総数は85点あり、最優秀賞：20万円（1点） / 優秀賞：1万円（3点）を決定した。受賞ロゴ作品はHP上で掲載すると共に、12月3日の京都研究会で授賞者への表彰式を行った。
- 「かかりつけ医」に関するアンケート実施
地域住民の方々が深く関わっていただくコミュニティー作りの一環として、また、役立つ医療情報共有サイト構築の為、2004年11月2日（火）～11月30日（火）の期間、第1回アンケートを実施。555人からの回答を得た。
今後も随時HP上にて実施予定。
- 内閣府 経済財政諮問会議（平成16年第27回）
2004年11月4日（木）医療におけるITの先進事例として取り上げられている京都医療センターの記事内で、「どこカル・ネット」プロジェクトが紹介された。
- 「どこカル・ネット」プロジェクト映像制作
2004年11月「どこカル・ネット」プロジェクトの趣旨を地域住民の方々に理解していただき、「自分や自分の大切な人々が、いつでも、どこでも、安心安全で質の高い健康・医療・福祉を受けることが出来る」というモチベーションを持っていただく為に、また、主体的に医療機関の情報化支援に関わっていただけるようイメージ映像を制作。
- 北岡事業統括責任者2004年度講演、主な活動
 - ・ HL7 18th Annual Plenary and Working Group Meeting Atlanta, GA, USA
電子カルテ標準化規格のHL7の国際会議に日本HL7協会の代表として2004年9月26日（日）～2004年10月1日（金）の期間、出席。
 - ・ Global IP Business Exchange 2004
「ヘルスケア事業におけるIPビジネスの動向」と題し、2004年11月17日（水）東京国際フォーラムにて講演。
 - ・ 21世紀臨調シンポジウム「21世紀構想フォーラム」第3回セッション
「日本経済社会の21世紀ビジョン～依存から自立へ」2004年11月30日（火）新高輪プリンスホテルにてシンポジウム開催。
 - ・ 厚生科学研究「医薬品の有効性・安全性評価方法研究」
2004年12月2日（木）北里大学薬学部にて第1回目班会議開催。
 - ・ 第6回京都研究会2004
「ユビキタス社会の健康・医療・福祉を考える どこカル・ネット」と題し、2004年12月3日（金）池坊短期大学にて講演。

- ・ 21 世紀臨調「生活者起点推進会議」
2004 年 12 月 15 日（水）東京にて開催。

また、2005 年 1 月に HL7 January Working Group Meeting Orlando, Florida, USA へ出席。2 月に国立京都国際会館にて APRICOT 2005 KYOTODAY パネリストとして参加予定である。

2-5. どこカル. ネット運営体制

■運営体制 <http://www.dokokaru.net/outline/organization.html>

【どこカル. ネット責任者】

役職	氏名	所属団体
事業統括責任者	北岡有喜	独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長・産科医長

【どこカル. ネット担当顧問】

氏名	所属団体
國領二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授/CAN フォーラム会長

【企業会員】

アライドテレシス株式会社	株式会社インスパイア
株式会社ヴァンテージ・コンサルティング	MVP 株式会社
株式会社ジェイテック	中央システムサービス株式会社
株式会社ネットマークス	日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
PBJ 株式会社	アイテック阪神株式会社

他 12 社

3. 「e 音ネット」事業 音でひらくアクセシビリティの扉

2-1. 事業概要

視覚障害者のための耳で覚えるタイピングソフト「ウチコミくん」、その姉妹版「ウチコミくん 3D」（立体音声キーボード練習ソフト）の開発・販売を行っていた任意団体 e 音ネット（2000 年 SCCJ が設立）が、解散（2003 年 4 月）したのをうけ、SCCJ では、「e 音ネット」の精神をさらに広げ、2003 年から音に特化したバリアフリー事業を活動の柱として入れている。

2-2. アクセシビリティ・プロジェクト

「アクセシビリティ」とは、あらゆる人が、ウェブやソフトウェア、機器、設備、サービスなどを不便なく利用できるようにしようという考え、または利用しやすさの程度を指す言葉。「Web アクセシビリティ」はこれからのホームページ作成においては必要不可欠。米国の行政施策「リハビリテーション法第 508 条」によって「情報バリアフリー」の必要性が明文化され、現在インターネットの世界標準化機構とも言える「W3C」が「ウェブ・コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン (WCAG1.0)」を整備している。また、日本においても総務省によって今後 JIS 化が推し進められ、「アクセシビリティ（たどり着きやすさ）」や「ユーザビリティ（使いやすさ）」を考えなければならない時代が来ている。

※米国リハビリテーション法 508 条

2001 年 6 月改正。連邦政府が調達する電子機器や情報端末、ソフトウェアに、障害者が使いやすいような対応や配慮を義務づける法律。対応を怠った場合は、職員や市民が、政府を訴訟することができるという、強制力をもっている。この法律では、パソコン本体やソフトウェア、Web サイトもその対象になっている。

このような世界的な流れを受けて、SCGJでは、財団法人大学コンソーシアム京都、京都高度情報協議会等とWebアクセシビリティ向上対策、審査基準制定の推進などに関し協議した。具体的な活動は以下の通り。

京都高度情報化推進協議会シンポジウム

「今日からはじめる Web アクセシビリティ」

～使う人。作る人。みんながうれしいホームページづくり～

当シンポジウムでは、「アクセシビリティって何？」といった基礎の説明や具体的な先進事例の紹介はもちろん、Webアクセシビリティに今、向き合っている各分野の担当者の『生の声』に触れていただくパネルディスカッションを通じて、Webアクセシビリティ実践の意義について参加者と議論の場を設けた。

1 日時

平成16年11月9日（火） 午後1時から午後5時まで

2 会場

京都ライトハウス 4階ホール

（周辺図：<http://www.kyoto-lighthouse.or.jp/about/map.html>）

〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町1-1番地

Tel：075-462-4400 Fax：075-462-4402

4 参加者

約100名

6 内容

・ 基調講演 1

「情報バリアフリーを目指して」

総務省情報通信政策局情報通信利用促進課 課長補佐 有馬 伸明 氏

・ 基調講演 2

「～みんなにやさしいWebって何？～

Webアクセシビリティの考え方とJIS X8341-3の概要」

インフォアクシア 代表 植木 真 氏

・ 事例紹介

「視覚障害者のはなし」

社会福祉法人 京都ライトハウス F S トモニー所長 高橋 一夫 氏

・ パネルディスカッション

「今日から必須！のWebアクセシビリティ

～自治体・企業の先行事例から～」

<パネリスト>

総務省情報通信政策局情報通信利用促進課 課長補佐 有馬 伸明 氏

大山崎町総務部総務課企画広報係 堀井 正光 氏

株式会社エクザム プランナー 池上 周作 氏

株式会社ワコール インターネット推進室室長 長 保幸 氏

京都生活協同組合 IT事業推進室 家辺 敏雄 氏

<コーディネーター>

インフォアクシア 代表 植木 真 氏

7 アクセシビリティ関連機器の展示、体験コーナー

<出展団体（敬称略）>

社会福祉法人 京都ライトハウス

社会福祉法人 西陣会（パソコン支援センター「きらリンク」）

特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター

株式会社アスク

キステム株式会社

財団法人ソーシャルサービス協会（協力：日本IBM株式会社）

* 上記以外の団体あてにも出展依頼・調整中です。

* 京都ライトハウスの施設見学（視覚障害の疑似体験：定員有）も予定しています。

2-3. 「音のお出かけ地図」プロジェクト

「音のお出かけ地図」は、特定非営利活動法人、日本サスティナブル・コミュニティ・センターが、社団法人全日本冠婚葬祭互助協会の「第5回社会貢献基金助成」を受け、2004年夏から冬にかけて行ったプロジェクトです。京都ライトハウスの授産施設FSトモニのスタッフと協同で実証実験を重ね、2004年末に完成しました。



【制作意図】

視覚障害者の外出に困難はつきものです。家を出てから戻るまで、道路の整備が悪かったり、交通の便が悪かったり、自分が今いる位置が確認できなかったり、欲しい情報が得られなかったり、手引きがみつからなかったり…と不安な要素に満ちています。視覚障害者の方が安心して外出、歩行するための「音の地図」があれば、外出がもっと楽しいものになるのではないかと、という発想で作成にとりかかりました。

■活動報告

7月	視覚障害者の皆さんと実地体験歩行をしました。
8月	「音のお出かけ地図」を作成する際に、どのような場所をどんな風に取り上げたいか？地域の皆さんにヒアリングします。また、現在、視覚障害者の方を対象に、京都ライトハウス、FSトモニスタッフがアンケートを行っています。
9月	高台寺～二年坂～三年坂の地図を携帯端末(PDA)に搭載し、松山からご参加の「街づくりサークルスクランブル」の皆さん(8名の方)、京都ライトハウスFSトモニの皆さん(4名)と一緒に歩行実験をしてきました。
10月	音のお出かけ地図実証実験その2を行いました。八坂神社南門～一年坂の地図を携帯端末(PDA)に搭載し、京都ライトハウスFSトモニの皆さんと一緒に歩行実験をしてきました。
11月	音のお出かけ地図実証実験その3を行いました。三年坂～清水坂～清水寺の地図を携帯端末(PDA)に搭載し、京都ライトハウスFSトモニの皆さんと一緒に歩行実験をしてきました。
12月	第6回「京都研究会」で実験成果を報告しました。

3. 研究会事業 (産官民学の活発な人材交流)

3-1. エココミュニティ研究会と SCCJ サロン活動実績

持続可能な経済(Sustainable Economy)、持続可能な社会(Sustainable Society)、持続可能な環境(Sustainable Environment)、持続可能な地域固有の文化継承・形成に向けての研究と実践。

* 各種研究会簡易報告書を SCCJ 一般用ホームページに、詳細報告書は会員専用ホームページにアップし、会員特典としている。

実施日 参加者数	『タイトル』 スピーカー氏名(組織名)
2004年2月27日 23名	『京都では安心して安全なまち暮らしに何が必要か』 「京都市の安全・快適な道づくり」(建設局道路部道路維持課) 視覚障害者の椎野孝伸さん(全盲)を囲み車座意見交流
2004年3月23日 16名	『地域情報化と地域アイデンティティー受信者の属性と利用メディアの地域比較』 講師: 藤本 昌代氏 (同志社大学文学部社会学科 専任講師・同志社大学 ITEC ファカルティフェロー)

	・独立行政法人 経済産業研究所ファカルティフェロー)
2004年3月16日 5名	『ウェブログ講座開催』
2004年4月24日 27名	『次の生き方 エコから始まる仕事と暮らし』 講師：森 孝之氏
2004年5月21日 15名	『ベンチャーの社会起業的広報戦略はどうあるべきか』 ■「ソーシャル・アントレプレナー（社会起業家の概念と実際）」 講師：川本 卓史氏（京都文教大学人間学部現代社会学科教授） ■「カスタネットの広報戦略」 講師：植木 力氏（株式会社カスタネット代表取締役）
2004年10月22日 24名	京都ソーシャル・アントレ会 発足記念交流会 『京都らしいものの現在』を熱く語ろう 講師：藤田 功博氏（有限会社のぞみ代表取締役社長）
2004年11月2日 18名	SCCJエココミュニティ研究会 『情報公開と情報セキュリティはどうあるべきか』 「個人情報保護の考え方」について 講師：上原 哲太郎氏（京都大学大学院工学研究科附属情報センター助教授 ・佐賀大学理工学部（非常勤講師） ・特定非営利活動法人情報セキュリティ研究所 副代表理事） 講師：木村 修二氏（(財)関西情報産業活性化センターIDC 事業部担当部長 ・(元宇治市企画管理部情報管理課課長）
2004年11月19日 16名	京都ソーシャル・アントレ会 定例勉強会 『名刺交換会に終わらないネットワークの在り方について』 講師：木下 敬介氏（京都大学大学院修士課程在学中 専攻：社会学若者論）

* 京都ソーシャルアントレ会は、ゆるやかなネットワークで、2004年5月のエココミュニティ研究会が発端となり、形成された。SCCJでは、浅野事務局長がボランティア的に、発起人として参加している。

3-2. 「地域産業おこしに燃える人サミット in Kyoto 2004」

「ITと起業家精神による地域活性化シンポジウム」

<http://www.sccj.com/summit/2004>

■日時 : 2004年7月16日(金) 13:00

■場所 : きょうと平安会館 2階 東山

京都市上京区烏丸通上長者町上ル TEL : 075-432-6181

<http://www.heian-kaikan.com/>

第1部 「ITと起業家精神による地域活性化シンポジウム」

パネルディスカッション I

「ITと起業家精神による地域活性 ～各地の事例から～」

コーディネータ : 真野博司 (株)産業立地研究所 代表取締役社長

パネリスト

松田一敬 北海道ベンチャーキャピタル(株) 代表取締役社長

関幸子 (株)まちづくり三鷹 事業部 プロジェクトグループ マネージャー

福田興次 (株)福田農場ワイナリー 代表取締役

パネルディスカッション II

「ITと起業家精神を京都の発展にどう活かすのか」

コーディネータ : 國領二郎 慶應義塾大学環境情報学部 教授/CANフォーラム会長

パネリスト

堀池喜一郎 NPO シニアSOHO普及サロン・三鷹 代表理事

高木治夫 NPO SCCJ代表理事/みあこネット事業統括責任者

加畑満久 京都職業能力開発短期大学校 助教授

築地達郎 (株)京都経済新聞社 代表取締役編集長

交流会

第2部 朝までトーク「安心安全、元気な街を創る」

■会場 松井本館 (京都市中京区柳馬場通六角下ル)

<http://www1.odn.ne.jp/matsuihonkan/map.htm>

スピーカー

清水宏一 京都市観光政策監 前京都デジタルアーカイブ研究センター副所長

北岡有喜 どこカル. ネット事業統括責任者/SCCJ みあこネット担当顧問、
独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長

3-3. 京都研究会

情報、ベンチャー、NPO で創る社会インフラや新しい社会、未来型組織の形に関する研究会で、今年で5回目を迎えた。この研究会は情報化によるオープンプラットフォームを機軸に、SCCJの一年の成果やその年の情報を切り口とした旬なテーマを設定している。

◆京都へ来れば何かが変わる

第6回京都研究会開催 「未来とのダイアログ」

『公共の概念を変える！ わたし達が創りたいユビキタスな「まち」』

【日時と会場】

・日時：2004年12月3日 金曜日

第1部 研究会 (13:00~17:30)、交流会 (18:00~19:30) 参加人数：70名

会場：池坊短期大学 「こころホール」

京都市下京区四条室町鶏鉾町 電話：075-351-8581

http://www.ikenobo-c.ac.jp/top_otoi.htm

第2部 夜塾 (20:30~22:00)、朝までトーク (22:00~)、宿泊 参加人数：50名

会場：京都市健康保険組合保養所「きよみず」

京都市東山区清水4丁目200番地 電話：075-561-9900

<http://www.kenpo.gr.jp/jfekenpo/news/2003/kiomizu/news.htm>

第1部の研究会では、主にSCCJが実施している事例を辿りながら、安心・安全で、元気な「まちづくり」の未来像を明確にし、第2部の夜塾では、世界的潮流になりつつあるスローライフ、LOHAS(Lifestyle for Health and Sustainability)、NPO・NGO、社会起業ムーブメントの最新動向をふまえ、「まち」と「暮らし」についての夢を大いに語り、都市農村交流型コミュニティづくりに関して、講演や意見交換がなされた。

プログラム

●第1部 研究会 13:00~17:30

「SCCJの軌跡 - 地域情報化による「まちづくり」の今、そして明日」

高木治夫 (SCCJ代表理事/みあこネット事業統括責任者)

『資源を資産に 京都のサステナビリティを考える 京文化可視化』

竹村真一 (京都造形芸術大学教授、文化人類学者)

『ユビキタス社会の健康・医療・福祉を考える どこカル. ネット』

北岡有喜 (SCCJどこカル. ネット事業統括責任者/

独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長/

産科医長/臨床研究センター情報推進研究室長)

『みあこネットの活動の意義とこれからの展開』

岡部寿男 (京都大学学術情報メディアセンター研究開発部教授)

『マルチキャスト放送実証実験報告』

満元英明 (MRT 宮崎放送商事事業本部部長チーフプロデューサー)

隅岡敦史 (SCCJプロジェクト・コーディネータ)

『公衆無線インターネットの安心・安全を支える「みあこネット方式」

「みあこ3」』

藤川賢治 (京都大学大学院情報学研究科助手/みあこネット総括
技術責任者)

『ユニバーサル・デザインのある暮らし「音のお出かけ地図」五感マップ』

高橋一夫 (社会福祉法人京都ライトハウスFS トモニー所長)

山口 要 (社会福祉法人京都ライトハウスFS トモニー)

黒木実奈子 (SCGJ プロジェクト・コーディネータ)

『こころざしの 21 世紀』

平井愛山 (千葉県立東金病院長)

『21 世紀の公共性とユビキタスマチ創り』

國領二郎 (慶應義塾大学環境情報学部 教授)

●交流会 18:00~19:30 池坊短期大学 第一会議室

- 第 2 部 夜塾 20:30~体力の続くまで ミニトークと膝詰め討論
LOHAS (Lifestyle for Health and Sustainability)、社会起業を
キーワードに考える 『週 3 日田舎暮らし、週 4 日都会暮らし』
町田洋次 (社団法人ソフト化経済センター理事長)
清水宏一 (京都市観光政策監)
浅野令子 (SCGJ 事務局長)

【主催】

特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター (SCGJ)

【後援】

京都府、京都市、京都商工会議所、京都情報基盤協議会、京都高度情報化推進協議会、京都新聞、京都経済新聞社、日本経済新聞社、京都商工会議所・ビジネスモデル推進センター

4. コンサルテーション事業「愛きもの」

SCGJ 関係者を中心に、若者に伝統文化やきものの良さを知ってもらおうと設立された愛きもの株式会社に対し、営利会社ではサービス情報が届けにくい NPO・ボランティア市場を対象とした広報・マーケティング支援、イベントの企画・運営も行った。今年度の企画内容は以下の通り。

4-1. e きもの NPO 支援サービス

<http://www.i-kimono.com/japanese/magazine/index.html>

それぞれの思いが詰まっているきものを個人から引き取り、インターネット・オークションにかけ、落札された金額を個人に還元し、愛きものはオークション代行手数料で収入を得ている (3000 円の定額代行料+落札価格の 15%)。今回、その仕組みを更に発展させ、多くの人に安心してきものを提供してもらい、落札料を NPO に還元するという新たなサービスを 2002 年 12 月から開始。第一弾として「京都ライトハウス改築チャリティ・オークション」を 2002 年 12 月初旬から行っており、SCGJ では愛きものとライトハウスの橋渡し、当該サービスのプロモーションなどを行っている。

5. 受賞

SCGJ では「みあこネット」を Good Design Award 2004 の新領域デザイン部門にエントリーし、無事 1 次審査を通過し、8 月 26 日 (木)~28 日 (土)には東京ビッグサイトにて他のノミネートデザイン作品とともに、展示を行った。

【 GDP2004 [Good Design Presentation2004] 】

<http://www.g-mark.org/gdp/synthesis.html>

◇日時

2004 年 8 月 26 日 (木)~28 日 (土)

8 月 26 日 (木) 18:00~21:00

8 月 27 日 (金) 10:00~18:00

8 月 28 日 (土) 10:00~17:00

◇会場

東京ビッグサイト 東展示棟 東 1, 2, 3 ホール

◇主催・後援

主催：財団法人日本産業デザイン振興会、株式会社丹青社

後援：経済産業省、日本商工会議所、日本自転車振興会、

日本放送協会、日本経済新聞社、国際機関日本アセアンセンター

6. 広報・マーケティング

Web サイト、メールマガジン、プレスリリース、各種メールングリストでの広報・マーケティングを行った。

6-1. 各種メールマガジン発行

各種事業のテーマと対象者の関心が違うことから、対象者に対応したメールマガジンの発行を 2002 年度から開始し、2004 年も定期的に行った。

○SCCJ 会員専用メルマガ 『SCCJ Information』

100 人へ発信 2004 年度 13 回発行

○みあこオーナー用メールマガジン 『miako express for owners』

オーナー、みあこネット関係者 150 名 2004 年度 11 回発行

○みあこネット情報メールマガジン

みあこネット情報メールマガジン受信希望者 450 名 2004 年度 2 回発行

6-2. 各種メールングリスト運営 (eGroups 利用)

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメールングリストが 10 数本あり、1,300 人ほどがネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メールングリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメールングリストで、設立当初の 1999 年の 190 名から数年たち、2004 年 12 月末に登録者は 930 名となった。

6-3. Web 広報

2004h 年現在運営しているサイトは以下の通り。

- ・SCCJ の Web サイト <http://www.sccj.com/>
- ・みあこネット <http://www.miako.net/>
- ・どこカル. ネット <http://www.dokokaru.net> (2004 年 5 月より開始)

★アクセシビリティに配慮

今までに得たアクセシビリティの知見やノウハウで、耳で聞く場合の論理構造や見やすさ、平易な文章編集にこころがけ、みあこネットは日本語、英語、中国語、韓国語と多言語対応とした。

6-4. プレスリリース

2004 年も各種企画や開発結果公表の際は、プレスリリースを出した。SCCJ、みあこネット合わせて、SCCJ 専用プレスリリースのメールングリストで 31 回のプレスリリースを出すとともに、各種ネットメディアにも情報を送るなど、積極的に情報発信を行った。

6-5. メディア露出度

2004 年度も、みあこネットを中心に、多数のメディアに取り上げられた。

●SCCJ (事務局把握分 12 前年度 9)

- ・2004 年 1 月 1 日 滋賀の経済と社会 古都京都からはじまるネットワークの輪
- ・2004 年 1 月 5 日 経済産業公報近畿版 地域を活性化する NPO の新たな連携事業
- ・2004 年 2 月 COMPUTER & NETWORK LAN
障害者と健常者の壁を越えるユビキタス・ラジオ
- ・2004 年 6 月 25 日 京都新聞 取材ノートから ボランティアビジネス軌道に
- ・2004 年 7 月 19 日 週間京都経済新聞 (1 面) 「NPO 活動で事業環境を整備」
- ・2004 年 7 月 21 日 京都新聞 “音声” で横浜と交流 ユビキタス・ラジオ使い
- ・2004 年 7 月 26 日 週間京都経済新聞 (1 面) 「起業家支援に新展開」
- ・2004 年 9 月 14 日 InternetWatch (インプレス)
PDA の音声読み上げソフトで視覚障害者向けの散策ガイド～SCCJ が実証実験
- ・2004 年 10 月 1 日 NHK 番組 「ニュース 610 京いちにち」で放映。
- ・2004 年 11 月 9 日 読売新聞 耳で読む新聞 PDA から音声
- ・2004 年 12 月 4 日 京都新聞 まちづくりに情報技術を 京都研究会が意見交換
- ・2004 年 12 月 16 日 朝日新聞京都欄 「音声地図が京案内」

●みあこネット (事務局把握分 5 1 前年度 8 0)

記載の一部

- ・2004年1月1日 京都経済新聞 発想と行動で突破口開く 燎原の火のように
- ・2004年1月1日 週刊京都経済 子ども先導役にポップカルチャー発言
- ・2004年1月1日 滋賀の経済と社会 古都京都からはじまるネットワークの輪
- ・2004年1月3日 北陸中日新聞 無線LANで活性化 住民がインフラ整備
- ・2004年1月5日 経済産業公報近畿版 地域を活性化するNPOの新たな連携事業
- ・2004年1月6日 読売新聞 市民、企業が“自腹基地局” みあこネット京都から全国へ
- ・2004年1月21日 京都新聞朝刊 無線でみんなに動画 きょうから配信実験
- ・2004年1月26日 週刊京都経済 街角ネット放送局を実証実験
- ・2004年2月11日 京都新聞朝刊 京都発・情報化の街づくり人気 みあこネット全国に広がる
- ・2004年2月12日 京都新聞 京生まれの公衆無線LAN みあこネット全国に広がる
- ・2004年4月3日 日経新聞朝刊 33面 「みあこネット」感度良好
- ・2004年6月5日 京都新聞 『ユビキタス社会の将来像を考える 「みあこネット」がシンポ』
- ・2004年6月17日 月刊e・Gov 2004年7月号 無線LANで地域情報化促進「みあこネット」
- ・2004年6月26日 京都新聞 ITで地域産業活性化へ 16日に「燃える人サミット」
- ・2004年8月7日 京都新聞地元経済 無線ネット、舞鶴にも

●どこカル. ネット (事務局把握分2 2004年5月のプロジェクト立ち上げ時より)

- ・2004年12月4日 京都新聞 まちづくりに情報技術を 京都研究会が意見交換
- ・2004年7月12日 株式会社アイ・ピー・ビー 『特許四季報』創刊2号
「1地域・1患者・1電子カルテ」によるホスピタリティの実現」
- ・2004年 『日経ヘルスケア21 電子カルテ・ウォッチ』 医療・介護・福祉のIT化の可能性

累計 (2004年1月1日～12月31日)

	SCCJ 全般	みあこネット	どこカル. ネット	計
大手新聞	2	2	0	4
地方紙	5	9	1	15
政府・行政系媒体	2	5	1	8
一般紙	1	1	1	3
ネット系メディア	1	31	1	33
テレビ・ラジオ	1	0	0	1
その他	0	3	0	3
計	12	51	4	66

7. 寄付

岡部寿男氏 113,500円、地域おこしに燃える人有志の会 80,778円 浅野令子 40,000円

8. 会員について (2004年12月末現在)

<SCCJ正会員> 情報を集計して入れる

会員種別	継続	新規	計
一般	50	24	74
学生	7	4	11
企業	4	0	4
合計	61	28	89

<SCCJ企業会員> 4社

株式会社ネットイン京都
愛きもの株式会社
他2社 (企業名非公開)

<みあこ企業会員> 9社
株式会社アイ・オー・データ機器、
オムロンフィールドエンジニアリング株式会社
松下電器産業株式会社
日本通信株式会社
インテル株式会社
株式会社日本ユニシス
京セラコミュニケーションシステム株式会社
株式会社トリプレットゲート
他1社 (企業名非公開)

<どこカル. ネット企業会員> 22社
株式会社ネットマークス
アライドテレシス株式会社
中央システムサービス株式会社
株式会社 ジェイテック
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
株式会社ヴァンテージ・コンサルティング
MVP株式会社
株式会社インスパイア
PBJ株式会社
アイテック阪神株式会社
他12社 (企業名非公開)

9. 助成金

1,700,000円 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金
100,000円 情報通信月間推進協議会

II センター運営に関する活動

1. 総会

特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター 総会
日時： 2004年2月20日 19:00-20:00
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
2003年度事業報告、収支報告、2004年度役員体制が了承された。

2. 2004年度 SCCJ 理事会開催

- 第1回理事会 2004年5月6日 17:00-18:30
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
- 第2回理事会 2004年5月31日 12:30-14:00
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
- 第3回 2004年7月26日 18:30-21:00
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
- 第4回理事会 2004年8月31日 19:00-23:30
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
- 第5回理事会 2004年9月21日 19:00-23:30
会場： 株式会社日本テレコン (東京都港区赤坂 2-19-8 赤坂2丁目アネックスビル3F)
- 第6回理事会 2004年11月3日 14:00-19:30
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
- 第7回理事会 2004年11月23日
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)
- 第8回理事会 2004年12月3日 10:30-13:30
会場： SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

3. 事務局体制 (2004年12月末現在)

(1) 職員

常勤：2名

専務理事・事務局長：浅野令子

プロジェクト・コーディネータ：隅岡敦史

非常勤：1名 小室貴弘

出向：1名

(2) インターン

立命館大学学生個人希望により受け入れ 2004年4月～9月

立命館大学学生個人希望により受け入れ 2004年6月～8月

京都大学学生個人希望により受け入れ 2004年7月～9月

(3) ボランティアスタッフ のべ人数：約100名

SCCJ 会員を中心として、特別企画にはボランティアが参画し、企画運営を行った。SCCJ ボランティア希望者専用メーリングリストも作り、SCCJ 活動サポーターの裾野を広げる努力をした。2004年12月末現在 50名登録。

3. 理事、監事、顧問 (2004年12月末現在)

代表理事	高木 治夫	(株) ネットイン京都 代表取締役
理事	竹原 司 (副代表理事)	デザインオートメーション(株) 代表取締役
	新川 達郎 (副代表理事)	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授
	浅野 令子 (専務理事)	SCCJ 事務局長
監事	菱田 健次	弁護士
顧問	跡田 直澄	慶応大学 商学部 教授
	今井 賢一	スタンフォード日本センター 理事 京都府中小企業総合センター 所長
	大村 皓一	宝塚造形芸術大学 大学院映像造形学科 教授
	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター 理事
	北岡有喜	独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長・ 産科医長
	國領二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授 / CAN フォーラム会長
	辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授
	北矢 行男	多摩大学経営情報学部・大学院修士課程 教授 戦略問題研究所 所長
	公文 俊平	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 所長 CAN フォーラム 会長
	林 敏彦	スタンフォード日本センター理事長
	町田 洋次	社団法人 ソフト化経済センター 理事長代行

山内 直人

大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授